

西の湖における水草の減少と真珠漁場環境の変化

桑村 邦彦

◆背景・目的

西の湖では、近年夏季の水草異常繁茂による餌不足等により、真珠母貝の成長不良やへい死が見られるようになり、真珠養殖業の大きな課題となっている。そこで、真珠漁場を取り巻く環境をモニタリングし、水草の抑制など漁場環境改善事業の実施のための基礎データの収集を行う。

◆成果の内容・特徴

- 水草現存量を平成14～18年の9月期で比較すると、平成14～17年までは約2000g/m² (15定点の平均値)で推移していたが、平成18年は約15g/m²と大幅に減少した。
- このことは、平成17年度冬期に水温が2～3℃まで低下したこと、春先の日射量の減少、4月からの湖底耕耘の実施、さらにプランクトン量の増加による透明度の低下などの要因によるものと推察された。
- 水草の現存量が減ったことにより、平成18年のT-P、クロロフィルa、溶存酸素量の夏季の値は平成14～17年と比較しても高く、これまで夏季に低酸素や餌不足となっていた母貝の生育環境が好転したと考えられた。
- 平成18年の真珠母貝の夏季の成長を過年度と比較した。真珠母貝は通常では水温が上昇する5月から12月にかけて成長するが、夏季に水草が繁茂していた平成15、16年は8月以降の成長が停滞していた。一方、平成18年は8月以降も順調に成長し、その成長量は良好とされる真珠漁場と同等のものであった。

◆成果の活用・留意点

真珠漁場環境の改善に大きな効果が確認された水草の抑制について、今後も継続した対策事業を展開していく必要がある。

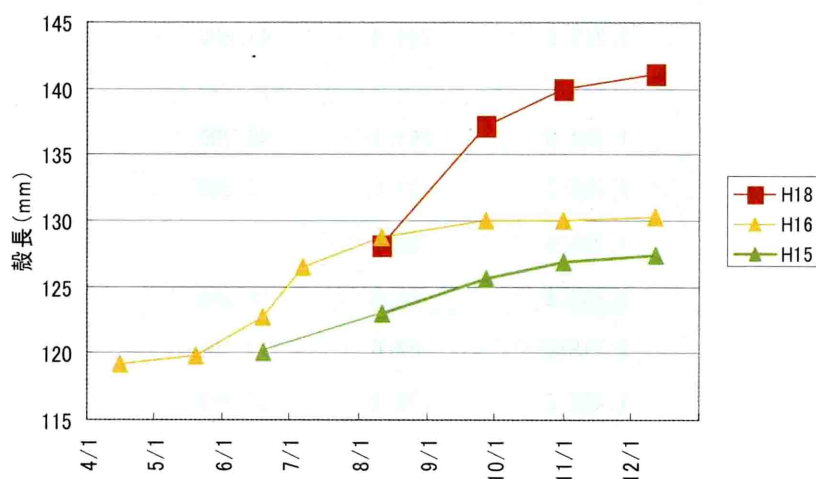


図 真珠母貝の年別成長比較